

1. 塗装設備と工場塗装施工管理について

1. 技術説明と工場見学

①昭和56年5月21日 津山部会長以下16名が三菱重工業横浜製作所を訪問し、松田鉄構部長、吉田工作一
* * * * *
課長、片岡主務、佐々木、平野、塩谷、の名氏より橋梁工場・プラスト工場・塗装工場の説明を受け、
見学を行った。（*防錆管理士）

②工場塗装施工管理要領（同所部標準）の説明があった。

2. 討議内容

・塗装関連作業の完全屋内化、機械化、自動化は、周辺ハンドリング設備まで含めると、数十億円の設備投資となり、投下資本利益率的には実現困難な面も多々あるが、見学例を参考に塗装設備近代化につき委員各位で意見交換を行った。

①塗装環境設備の必要性

- ・有害要素^{*}の排除、公害防止及び法・条令等^{**}の順守の見地から屋内化の必要性を認識する。
*雨・風・塵・紫外線・海塩粒子など **大気及び水質汚染防止、有機溶剤中毒防止など
- ・温度及び湿度のコントロール

②機械化・自動化の必要性

・既に他産業では塗装の自動化、ロボット化を果しており、鋼橋業界に於ても品質の均等化、向上と汚染、危険作業の効率化のため、メンテナンス用ロボットの開発、実用化時代が到来するものと認識する。

③周辺ハンドリング設備の必要性

・プラスト・塗装の機械化、自動化のみでは効率化は果せない。ワークの供給、塗料及びグリッド等の自動供給回収等の周辺ハンドリング設備の拡充が必要である。

④工場塗装管理の留意点

・塗装関連業務のチェックシート^{*-1}、塗装施工管理チェックシート^{*-2}、塗装工程に於ける検査対象項目、
^{-3}
塗装検査項目に対する検査方法と判定基準^{*-3}、につき配布資料に基づき討議した。

- *-1 共通項目、下地処理、塗装、管理（三菱重工社標準）（鉄構部標準）
- *-2 工程管理、足場関係、下地処理準備、下地処理作業、塗装管理、塗装準備、塗装作業、塗装作業終了時
- *-3 下地処理、塗装及び調合、塗装工程内、塗膜、塗装色及び塗装範囲、特別検査（鉄構部標準）